

科目名：口腔衛生学 I (Oral Health & Public Health I) 履修年次/時期：1 年次 後期 授業形態：講義 主担当教員：戸田真司（実務経験 歯科医師 25 年：実務経験から人々の暮らしを支えることを目的に歯・口腔に関連する疾病や異常の予防と歯科口腔保健の保持増進に必要な基礎的知識が身につくよう授業を行う。 担当教員：荒川浩久、宋 文群		必	2 単位 (90 時間)	
学修目的	歯と口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みを学修する。具体的には疾病異常の原因、予防に関する科学的事実と基礎を正しく理解し、必要な知識と技術を身につけ、患者の教育と指導の実践の能力を修得する。 CP2, 4 に関連する。 科目 No.S1B07H18			
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○	
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○	
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○	
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎	
		(3) 社会の動向に関心を持ち、学び続ける力を有する。	○	
	3. 口腔の健康支援を通して、全身の健康を守る高度な専門的能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○	
		(2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。	○	
		(3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○	
	◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP			
	到達目標	歯科衛生士としての個人口腔衛生の知識と技術を修得し、患者のライフステージに応じた予防と健康増進を支援するとともに、他医療職と連携をとることができる。 ①歯・口腔の発育と機能ならびにそれを取り巻く歯・口腔の環境を説明できる。 ②口腔清掃の基礎と実際を説明できる。 ③う蝕予防の基礎と実際を説明できる。 ④歯周疾患予防の基礎と実際を説明できる。 ⑤その他の歯科疾患の基礎と実際を説明できる。		
授業概要	歯科疾患の原因と予防に関する理論と実際とを正しく理解し、患者の教育と指導、歯科公衆衛生活動ならびに地域歯科保健活動を実行するために必要な知識と技術を学ぶ。			
評価方法	学期末本試験（100 点満点） 授業への参加度および課題の実行度に応じて加点を行う。 授業中の私語や指示のない携帯端末の使用など、不適切とみなされる受講態度が認められる場合には減点を行う。 試験に対するフィードバックを行う際には、個別対応でなく掲示にて行う。			
予習・復習時間	【予習課題】 2.0 時間 【復習課題】 2.0 時間			
教科書	歯科衛生士テキスト・口腔衛生学—口腔保健統計を含む—（学建書院）第4版			
参考書	別冊歯科衛生士・ブランクコントロールのためのホームケア指導（クインテッセンス出版）			

オフィス- 連絡先	<p>戸田真司：月～金曜日 12:20～12:50、16:00～17:00 4号館 2階（戸田研究室） toda.s@kdu.ac.jp</p> <p>出張や会議などにて不在の場合がありますので、事前にメールをいただくと円滑に対応できます。</p> <p>荒川浩久 arakawa@kdu.ac.jp</p> <p>非常勤につき、授業前後 10分に教室あるいは控室にて対応いたします。また、メール連絡にて対応いたします。</p> <p>宋文群：月～金曜日 16:00～17:00 第2研究棟 4階 口腔衛生学第1研究室 song@kdu.ac.jp</p> <p>出張や会議などにて不在の場合がありますので、事前にメールをいただくと円滑に対応できます。</p>
--------------	---

実施回※	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (9/8)	<p>口腔衛生学の意義、歯・口腔の健康と機能</p> <p>①口腔保健の概要と健康の概念を説明できる。</p> <p>②予防の3相5段階を説明できる。</p> <p>③咀嚼の意義を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P1-5</p> <p>[キーワード]口腔衛生学、健康の連続概念、口腔と全身との関連、予防の3相5段階、咀嚼の意義</p>	<p>講義</p> <p>○戸田</p>
2 (9/22)	<p>歯・口腔の発育変化</p> <p>①歯と口腔の機能を説明できる。</p> <p>②歯と口腔の発育変化を説明できる。</p> <p>③歯の形成に必要な栄養素と役割を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P5-13</p> <p>[キーワード]歯・口腔の機能、摂食・嚥下、味覚、構音、歯胚形成開始期、石灰化開始期、萌出時期、歯の形成に必要な栄養素</p>	<p>講義</p> <p>○宋</p>
3 (9/29)	<p>口腔環境</p> <p>①唾液の作用を説明できる。</p> <p>②ペリクルの意義と特徴を説明できる。</p> <p>③エナメル質の萌出後の成熟現象を説明できる。</p> <p>④口腔常在菌の分布の概要を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P13-17</p> <p>[キーワード]唾液の作用、緩衝作用、抗菌作用、ペリクル、エナメル質の萌出後の成熟現象、口腔常在菌</p>	<p>講義</p> <p>○戸田</p>
4 (10/6)	<p>歯・口腔の付着物・沈着物（1）</p> <p>①プラークの形成機序と特徴を説明できる。</p> <p>②マテアリアルバの特徴を説明できる。</p> <p>③プラークの成熟による口腔細菌叢の変化を説明できる。</p> <p>④食物残渣とプラークとの関連を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P17-21</p> <p>[キーワード]プラークの構成・形成・成熟、歯肉縁上プラーク、歯肉縁下プラーク、プラークの口腔細菌叢、マテアリアルバ、食物残渣</p>	<p>講義</p> <p>○戸田</p>
5 (10/6) ※5 限目	<p>歯・口腔の付着物・沈着物（2）</p> <p>①歯石形成機序と特徴を説明できる。</p> <p>②着色性沈着物の特徴を説明できる。</p> <p>③舌苔の特徴と清掃法を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P21-25</p> <p>[キーワード]歯肉縁上・縁下歯石、歯石の特徴・形成機序、外因性・内因性着色性沈着物、舌苔</p>	<p>講義</p> <p>○荒川</p>
6 (10/20) ※2 限目	<p>口腔清掃（1）</p> <p>①プラークコントロールの意義を説明し、口腔清掃法を分類できる。</p> <p>②歯ブラシの構成を説明できる。</p> <p>③ブラッシングの方法と特徴を説明できる。</p> <p>④口腔清掃の補助清掃用具の特徴を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P27-33, 38-42</p> <p>[キーワード]自浄作用、機械的（人工的）清掃、専門的清掃、物理的・化学的プラークコントロール、手用歯ブラシの構造、電動歯ブラシ、毛先を用いるブラッシング、脇腹を用いるブラッシング、ブラッシングの有害作用、歯垢染色剤、歯間ブラシ、デンタルフロス、ワンタフトブラシ、介護用口腔清掃用具、義歯用清掃用具、舌清掃</p>	<p>講義</p> <p>○戸田</p>
7 (10/20)	<p>口腔清掃（2）</p> <p>①歯磨剤を分類し、成分と機能を説明できる。</p> <p>②洗口剤を分類し、成分と機能を説明できる。</p> <p>③口腔保湿剤の目的と種類を説明できる。</p>	<p>[予習・復習]教科書 P31-37</p> <p>[キーワード]化粧品、医薬部外品、歯磨剤の剤形、歯磨剤の基本成分・薬用成分、医薬部外品洗口剤、洗口剤の基本成分・薬用成分、口腔保湿剤</p>	<p>講義</p> <p>○宋</p>

8 (10/27) ※2 限目	う蝕の予防 (1) ①う蝕の発生要因と発生機序を説明できる。 ②う蝕における脱灰と再石灰化平衡を説明できる。	[予習・復習]教科書 P43-48 [キーワード]う蝕の発生要因、宿主要因、微生物要因、食餌性基質要因、時間要因、う蝕の発生機序、初期う蝕の再石灰化現象	講義 ○戸田
9 (10/27)	う蝕の予防 (2) ①う蝕活動性試験を分類し、特徴と判定方法を説明できる。 ②う蝕予防の3相5段階を説明できる。	[予習・復習]教科書 P48-54 [キーワード]う蝕活動性試験、エナメル質う蝕、根面う蝕、う蝕の予防方法、う蝕予防の3相5段階	講義 ○宋
10 (11/10) ※2 限目	歯とフッ化物 (1) ①フッ化物の意義と自然界での分布を説明できる。 ②フッ化物の代謝と急性毒性を説明できる。	[予習・復習]教科書 P55-60 [キーワード]フッ化物の意義、フッ化物の不可欠性、フッ化物の分布、フッ化物の代謝、フッ化物の急性毒性	講義 ○宋
11 (11/10)	歯とフッ化物 (2) ①フッ化物の慢性毒性を説明できる。 ②フッ化物によるう蝕予防機序を説明できる。 ③フッ化物応用の歴史を説明できる。	[予習・復習]教科書 P60-64 [キーワード]フッ化物の慢性毒性、歯のフッ素症、骨フッ素症、フッ化物のう蝕予防機序、フッ化物応用の歴史	講義 ○宋
12 (11/17) ※2 限目	歯とフッ化物 (3) ①フッ化物全身応用と局所応用を分類し、特徴を説明できる。 ②フッ化物応用によるう蝕予防効果を説明できる。	[予習・復習]教科書 P65-72 [キーワード]フッ化物全身応用、水道水フロリデーション、フッ化物補充剤、フッ化物局所応用、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物洗口、フッ化物歯面塗布、う蝕予防効果	講義 ○戸田
13 (12/1) ※2 限目	歯周疾患の予防 ①歯周疾患を分類できる。 ②歯周疾患の発生要因とリスクファクターを列挙できる。 ③歯周疾患予防の3相5段階を説明できる。	[予習・復習]教科書 P73-86 [キーワード]歯周疾患の分類、歯周疾患の発生要因、歯周疾患のリスクファクター、歯周疾患と全身疾患との関連、歯周疾患予防の3相5段階	講義 ○戸田
14 (12/8) ※2 限目	口臭・不正咬合・他疾患の予防 ①不正咬合の特徴と予防方法を説明できる。 ②口臭の特徴と予防方法を説明できる。 ③その他の歯科疾患の特徴と予防方法を説明できる。	[予習・復習]教科書 P87-97 [キーワード]不正咬合の種類、不正咬合の影響、不正咬合の原因、不正咬合の予防、口臭の分類、口臭の原因、口臭の測定と診断、口臭の予防、舌清掃、歯の損耗、マウスガード、顎関節症、口腔癌、着色歯・変色歯	講義 ○戸田
15 (12/15) ※2 限目	口腔衛生学 I のまとめ ※第1～14回の講義資料を持参してください。	【予習・復習】教科書 P1～97	講義 ○戸田

※時間割の変更が生じた場合には KDU ポータルサイト等にて周知します。